

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

放射線技術科学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1 など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      評価基準が作成されていない科目があった</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      できる内容の講義では行われた</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      シラバスに適切な評価方法が記載されている</p>

	<p>④各科目の合否の判定（単位認定）に加えて GPA 注3 による評価を活用します。 GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3 年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 確認試験は行われている</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA 活動 注4）を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> ガイダンスや面談で指導している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 下位学年の講義の中に国試問題を意識させる</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 学生の意識調査を行う</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注5 活動）を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> FD の授業評価を参考に改善を行っている</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨床実習先での本学の教育に対する評価を活用している</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> IR との連携を行っている</p>

2018年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・管理栄養専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      プレゼンテーションを観察し、評価している授業はあるが、適切な評価尺度で行われている科目については改善を要する状況である。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。                      「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                      形成的評価について、小テスト、模擬試験、定期試験による評価は進捗している。より包括的な形成的評価は食品学などで新たに導入され、他の科目での導入計画も進行中である。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。                      全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方</p>

	<p>法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          アウトカムの確認の方法についての議論が進行中であるが、学生自らに自分のマイルストーンを把握させるためのシステムに関する意見集約が遅れている。</p> <p>④各科目の可否の判定（単位認定）に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          アチーブメントテストを実施予定（9月）である。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA 活動 注4）を促します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          各授業にグループワークを取り入れ実行中である。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          上記はほぼ達成しているが、成績不振による退学者を含めなければ100%達成した。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          評価尺度は整備している。一方で、IR とのより有機的な連携の構築に一部課題が残っている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注5活動）を不断に継続していきます。  <input checked="" type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          FDに参加し、教員の教育改善が図られている。学生評価に基づく自己評価と教育改善への反映も行なっている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用</p>

	<p>し、教育課程の改善に生かします。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨地実習時に卒業生就職した施設、病院に教育に対する意見を伺い、改善に生かしている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> IRの情報を活用しているが、それを教育課程改善に活用することについて十分に進んでいない。</p>
--	--

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療栄養学科・臨床検査専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度 (ルーブリック 注1 など) を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験 (OSCE 注2) で技能や態度の評価が行われます。また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      演習科目でのプレゼンテーションの評価や実習科目における実技試験や実習への取り組み態度の評価は、実際ほとんどの対象授業で行っているが、ルーブリック形式の評価は行っていない。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否 (単位認定) を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。                      「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期 (セメスター) 修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価 (合否の判定) に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      4年次の総合演習 I および II では模擬試験を数回組み入れ、また、(臨床) 微生物学などの一部の講義では、毎回復習小テストを行い、学習成果をモニタリングしている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。                      全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階</p>

	<p>において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          臨床微生物学実習など一部の授業では、最後の課題として、「臨床検体をイメージされた未知検体の同定」を行わせることにより、目標達成度を各自確認させている。</p> <p>④各科目の合否の判定（単位認定）に加えてGPA 注3による評価を活用します。          GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          GPA2.0未満の学生は国家試験に殆ど合格しない事実を基に、2年次には強制的に、その他の学年では適時三者面談を実施し、学生・保護者・教員が三位一体となって、学習・生活指導を行っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA活動 注4）を促します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          再試験科目多い学生に対しては、担任が中心となり面談を行い学修行動の振り返りを含めて指導している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input checked="" type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          2018年度の現役受験者の合格率がこれまでより大きく落ち込んだことから、受験対策に関して大幅な改善が必要である。専攻内で昨年度対策についての振り返り及び今後の対応について検討を行った。各教科に共通する標準的かつ具体的な教育法について検討中。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          2019年度からの対応を検討している。</p>

	<p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注5活動）を不断に継続していきます。</p> <p>■達成(100%) ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全教員が毎回FDに参加し、授業改善に努めている。また、学生の授業評価を基に自己評価を行った。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>臨床実習先の技師長等をお呼びしての臨床実習前説明会や臨床実習報告会における技師長等の意見を尊重し、臨床実習前事前指導の改善を行っている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>IR推進室の分析報告に基づき、教授方法の改善に向けて検討しているが、まだ十分科学的根拠に基づいた教育課程の改善を行っているとは言い難い。</p>
--	---

2018年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

理学療法学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>評価学実習において、従来から評価基準の明示、実施がなされている。学修ポートフォリオ活用については徹底されていない</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>専門科目の多くで実施できている</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨床実習前の定期試験、実習後の報告会、学生評価を通じ、臨床力(技術)到達度を確認し、年度末の模擬試験を通じ、知識学習レベルを確認している。</p> <p>④各科目の合否の判定(単位認定)に加えてGPA注3による評価を活用します。 GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したのですが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 上記の内容を実施した</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動注4)を促します。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 特に臨床実習においては必要な知識技術が眼前にあり、学生にとって分かりやすい。デイリーノートを義務づけ、行動記録、学習記録、これらに基づく行動計画を明記させている。教員はメール、訪問で指導、助言を与えている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。 本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 国家試験 100%合格</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 評価学実習において、従来から評価基準の明示、実施がなされている。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD注5活動)を不断に継続していきます。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 学生の授業評価を講義内容、講義環境の改善に活用している。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p>

	<p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨床実習施設訪問時の面談、臨床実習指導者会議の際のアンケートを通じ、外部からの評価に傾聴し、活用している。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> IR 報告会を通じ、成績不振者の背景を分析、学生指導に反映している。</p>
--	---

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・医療福祉学専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1 など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>講義科目においては、社会福祉学の価値・知識・技術を問う試験において、客観的に学習成果を測定することができた。さらに、演習や実習（社会福祉士・精神保健福祉士）における評価についても適切な評価基準を元に各教員が学生の評価を行うことができた。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>講義科目・演習科目ともに、各回の授業におけるミニテストや中間テストを実施することとおして、学修成果の到達度を把握しながら、授業の進捗状況の参考としたり、学修成果の充実を図る取り組みを行った。その結果、概ね本専攻内においては到達水準に達した。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階</p>

	<p>において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>3年生については相談援助実習や精神保健福祉援助実習をとおして、4年生については医療ソーシャルワーク実習をとおして、ソーシャルワーカーとしての目指すべき専門職の姿を適切に理解した上で、現時点での自らの状況（自分の立ち位置）を的確に確認することができた。さらに、3、4年生は前後期の国家試験対策において、全国統一模擬試験、学内模擬試験等の結果により、国家試験の合格ラインと学生自身の学力とを実感することができた。</p> <p>④各科目の合否の判定（単位認定）に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものであるが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>相談援助実習は2年後期の相談援助実習指導Ⅰから3年前期の相談援助実習指導Ⅱに推移する時点で習熟度テストを実施し実習の可否を決定している。なお、3年後期の精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱ、医療ソーシャルワーク実習指導についても相談援助実習と同様に実力試験を実施している。なお、実習の可否イコール GPA との評価は、本人の隠れた能力や資質を見落としてしまう危険性を孕むことにもなりかねないため、実習の可否は GPA のみで判定することを極力避け、あくまで参考として評価を行うものとしている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA 活動 注4）を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>事前学習や事後学習の一つとしてレポート課題を出したり、頻回のグループワークを用いたプレゼンテーション授業を行ったりすることとおして主体的・積極的な学習への取り組みが行えるようになった。さらに、卒業研究においては、ゼミ担当教員から指導を受けることをとおして、学生自ら積極的に論文テーマの研究に取り組むことができた。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国と同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2018年度に卒業した学生は、入学者20名（うち4名退学）、社会福祉士国家試験受験者11名、同合格者8名（入学者比40.0%、受験者人数比72.7%）、精神保健福祉士国家試験受験者2名、同合格者2名（入学人数比10.0%、</p>

	<p>受験者人数比 100%) であった。医療福祉学科入学学生の中には国家試験受験を当初より希望した者もいるため、2018 年度は過去の実績と比べてもピークと考えてよい実績であったと考えている。国家試験受験者をもう少し増やすことが必要である。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  2018 年度に卒業した学生は、入学者 20 名（うち 4 名退学）、社会福祉士国家試験受験者 11 名、同合格者 8 名（入学者比 40.0%、受験者人数比 72.7%）、精神保健福祉士国家試験受験者 2 名、同合格者 2 名（入学人数比 10.0%、受験者人数比 100%）であった。医療福祉学科入学学生の中には国家試験受験を当初より希望した者もいるため、2018 年度は過去の実績と比べてもピークと考えてよい実績であったと考えている。国家試験受験者をもう少し増やすことが必要である。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注 5 活動）を不断に継続していきます。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  学生の授業評価の内容は全教員が真摯に検討を行い、次年度のシラバスに改善点を記している。教員の自己評価は個別に行われ、その成果が授業や教育内容の改善に生かされているが、その内容を学科内で情報共有するという課題が残っている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  卒業生が本学教員を訪ねて来る機会が多く、また県内社会福祉・医療機関の職員が情報交換や就職の応募案内のため本学に来ることも多い。そこで得られた情報は教員間で情報共有され、教育課程や内容の改善に生かされている。さらに積極的な在学生のインターンシップ参加を吸心する課題が残っている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注 6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)  <b>上記達成状況の具体的内容</b>                  大学 IR 推進委員会の本学科にかかる報告会を実施し、その内容を教員間で情報共有を行った。その結果は教育課程や教育内容の改善に生かされている。</p>
--	--

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医療福祉学科・臨床心理専攻	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1 など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      実技・実習に関する独自の評価基準を作成し、学生にも提示して評価している。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、可否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（可否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>                      定期試験以外に小テストやショートレポートなどの課題を出し、その結果も併せて習得度を評価している。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。</p>

	<p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          全教科において「到達目標」を明確に提示した上で評価基準を提示することによって、学生自身がどの程度到達できたか理解できるようにしている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えてGPA注3による評価を活用します。          GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          GPAは学生の授業の理解の程度について教員が把握し、学生指導(教育支援、進路指導)に役立っている。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動注4)を促します。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          上位学年では、配布資料や自ら検索した文献を読みそれに対する考察をまとめることが学びの基本となるので、初年次からそれを伝え、学習方法に関する理解を促している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          全教員に専攻の方針とそれに即した評価基準について周知している。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          方針に基づいた独自の評価基準については検討中である。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善(FD注5活動)を不断に継続していきます。          □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          全教員が、学生の各期ごとの授業評価の確認し、授業の改善に役立っている。</p>

	<p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 学生の就職先の評価を教員全員が理解し、教育改善に役立てている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満) <b>上記達成状況の具体的内容</b> 大学全体で行なった分析については、専攻の教員全員が確認し、教育の改善に役立てている。</p>
--	--

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

鍼灸サイエンス学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ループリック 注1 など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>知識や思考力の評価方法は試験、技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度を用いる評価方法を活用しています。評価尺度については、事前に説明し、その学習方法について個別に面談しています。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>形成的評価については、国家試験および最終的総括評価（合否の判定）の2つを重点的に強化しています。国家試験は、学生の習熟度に合わせた実力テスト、模擬テストを提供し、底上げを目的として提供しています。総合評価は、必要な水準に達成できるまで、繰り返し実施しています。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p>

	<p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>全科目について、面談にて個別に把握するように指導している。評価方法としては、演習・実技科目については詳細な把握ができるよう調整されているが、講義科目では、一部徹底されていない部分もある。</p> <p>④各科目の可否の判定（単位認定）に加えて GPA 注3 による評価を活用します。</p> <p>GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>GPA を進級・卒業・国家試験合格の目安として指導に活用している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA 活動 注4）を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>個別面談の中で活用し、学生の自己改善に結びつけている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>受験者合格率は、はり師 96%、きゅう師 100%であったが、入学者あたりの合格率は 71%と目標には達しなかった。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>教育効果を高めるために、学科評価と全学的調査を含めて、評価指導している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注5 活動）を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p>

	<p>学生の授業評価に基づき、担当教員の教育改善を継続している。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 客観的評価はないが、口答による主観的評価や意見を聴取して、教育課程の向上に生かしている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> IRでの分析結果に基づき、国家試験対策や教育課程の改善に取り組んでいる。</p>
--	--

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

臨床工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度 (ルーブリック 注1 など) を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験 (OSCE 注2) で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>従来より講義において知識・思考を確認するために試験やレポートを活用し、実習科目では、技能や態度についての適切な評価をしている。さらに、一部ルーブリックを試みているが、ポートフォリオの活用とともに十分ではない。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否(単位認定)を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期(セメスター)修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価(合否の判定)に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>小テスト、国家試験・資格試験のための模擬試験、定期試験を組み合わせで行っている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法</p>

	<p>で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          明確な目標として国家試験や資格試験があり、その達成に至るマイルストーンとして模擬試験や補講での試験、その他小テスト、定期テストなどを位置づけている。</p> <p>④各科目の合否の判定（単位認定）に加えて GPA 注3による評価を活用します。          GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          ガイダンス時に GPA が学修指導に広く活用されることを周知し、低 GPA に基づく面談指導を行った。さらに本年度4年のクラス編成並びに就職活動に活用した。3年前期学内実習時での学内教員による確認試験は未導入である。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA 活動 注4）を促します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          学生の振り返りによる主体的な自己改善や学習改善についてアンケートやリフレクションシート、面談時に指導を行っているが、PDCA は行っていない。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。          本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          国家試験の合格率は、新卒 97.6%と全国平均 87%を上回り、新卒＋既卒においては 91.1%で、全国平均 77.5%を上回った。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          実習などにおいて、技能（一部ルーブリック）や態度評価は行われているが、全学的な学修行動調査や意識調査については把握できていない。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注5活動）を不断に</p>

	<p>継続していきます。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 学生による授業評価、教員の自己評価さらに FD 集会への参加等について不断に継続的に行われた。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> 臨床実習先からの評価は得られているが、卒業生や就職先機関による本学の教育に対する評価については検討中である。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより (IR 注6)、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。 <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b> IR 推進室を中心に、GPA に基づくデータの提供など、情報の蓄積が進みつつある。</p>
--	--

2018年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

医用情報工学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブリックは使っていないが、評価方法に関しては、それぞれの科目で試験の成績以外にプレゼンテーションやレポートなど様々な工夫をした。</li> <li>・ 2年生医療情報セミナーⅠ・Ⅱでは学生自らが自分の強み弱みを知り、自身で自分を評価する取り組みも行った。</li> </ul> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>従来から、多くの科目で総合評価方式を採用しており、試験の成績一辺倒の形は取っていない。ただ、この項目は、不断に考えていかなければならないことから、100%達成としていない。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏</p>

	<p>んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各科目で何を何処まで教えるかについて科目間の調整を行っているところである。残された課題は、議論した内容をどのように学生に周知するか、並びに、彼らの成績をどのように見える化するかである。少し遅れ気味だが、最も難しい教員同士の意識の統一が見えてきているので50%とした。</p> <p>④各科目の可否の判定（単位認定）に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPA は学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものであるが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期病院実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記進捗状況の具体的内容</b></p> <p>GPA は、卒業時の優秀賞や特に気になる学生の判断基準など特定に事項で利用している。しかし、個々の科目の評価で GPA の値を反映させることに関しては学科内で意見が分かれており、結論が出るまでに少し時間が必要である。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA 活動 注4）を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>⑤のテーマを目的とした科目があり、その効果はでていると考えている。出ていると考える理由は、2年生に配置したこの科目を積極的に主導している先生には3年生との接点が殆ど無いが、3年生後期に行う卒研の研究室配属でこの先生を希望する学生が極めて多いこと、並びに、2年生以降でこの先生の学生による評価が高くなっていることによる。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合や GPA の他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>残念ながら、本学科の学生の多くは第二希望での入学者であり、自信を喪失した学生が沢山いる。幸い、学科には関連する資格が沢山あり、自信を取り戻す為に学生には卒業までに何かしらの資格を取るように指導をしている。無論、試験対策科目もあるが、希望者を対象とした補講も随時開講している。少しずつであるが、医療情報基礎知識検定や医療秘書など幾つかの試験で受験者数が増えてきている。</p>

	<p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来から、入学後の早い段階で、学科独自に開発した特性試験を通じて習熟度調査を行い、面接や学習行動調査も行っている。その内容は全学的な調査とも付き合わせて分析し、その結果は学科教員全員が共有できるようにしている。</li> <li>・ それらは例えば Remedial が必要とされた学生への対応など、問題がありそうな学生の資質や特性を理解するために使っているが、正規の科目の成績の評価には使っていない。このことから、遅れ有(50%)とした。</li> <li>・ この情報を今後どのように活用するかについては来年度以降の検討事項としたい。</li> <li>・ ルーブリックは、一部の科目で導入を試みたが、学生が行う評価尺度の設定が難しいことが判り、中断した。ルーブリックによる評価に入る前に、科目の内容と目標、並びに、その意義について学生と十分話し、その上でこの方法を導入する必要がある。しかし、そのためには1コマをこのことのために割かねばならず、具体化には授業内容の見直しが必要であると考えている。</li> </ul> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注5活動）を不断に継続していきます。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>これは不断に行っていかなければならない項目であり、選択肢は、常に、実行中である。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生の就職先機関からの評価は、断片的に伝えられている。ただ、現時点で良い評価しか届いておらず、教育改善に繋がっていない。アンケート調査をするなど、もっと積極的な対策を講じたいと考えている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>この項も、不断に行っていかなければならない項目であり、選択肢は常に実行中となるが、例えば④で述べたようにもう少し沢山のデータを集積する努力をしていく必要があると考えている。</p>
--	--

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

薬学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>①学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1 など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>講義においては知識・思考を確認する試験やレポートを行っている。また、実習や演習ではプレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック）を用いる評価方法を活用している。さらに客観的臨床能力試験（OSCE）で技能や態度の評価が行なっている。学修ポートフォリオについては今後活用する。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各授業で小テストを行い、中間試験をもうけることで学習を繰り返し確認している。同時に4年次には薬学総合演習で、CBT 試験合格に到るまでの演習を行い、さらには、6年生の薬学特別演習で、演習と模擬試験を行うことによって最終的な目標達成（国家試験合格）のどの位置まで到達したか把握できるようにしている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカ</p>

	<p>ム)を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できるようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置(マイルストーン)を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各授業で小テストを行い、4年生では薬学総合演習での CBT 試験のための演習と模擬試験を行っている。6年生では国家試験のための模擬試験をおこない何がわかっているのか(アウトカム)を確認し、最終的な目標達成(CBT試験および国家試験)のどの位置まで到達したか把握できるようにしている。</p> <p>④各科目の可否の判定(単位認定)に加えて GPA 注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものです。が、進級、卒業(学位授与)、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>秋の保護者会では、3年生の成績の振るわない学生(GPA2.0未満)の保護者について面談をおこなった。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動(PDCA活動注4)を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各学期に担任面談を行い、学生の学習行動を担任教員ととも振り返り、学修行動の改善を話し合っている。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>これまでの学生のデータ(GPA、プレースメントテスト結果、模試成績、CBT試験結果、国試結果)を活用している。特に6年生では、単位認定試験を毎週行い、その振り返りの時間を毎回設けて、これまでのデータを開示して対策を話し合っている。2018年は、卒業生57名のうち53名(93%の合格率)が合格し、全国私立大学の平均の85%よりも良い数字であった。また、入学者数あたりでは本学の合格率は約50%の合格率であるが、この数字は同レベルの私立大学と比較しても遜色のない合格率である。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度(ルーブリックなど)を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査</p>

	<p>や意識調査により評価します。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          実習や演習ではプレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック）を用いる評価方法を活用している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD 注5活動）を不断に継続していきます。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          各教員が学生の授業評価を確認して改善を行っている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input checked="" type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          卒業生からの意見は、毎年開催される同窓会で直接意見を貰っている。また、薬局・病院実習で教員が訪問した際に、本学の教育についての意見を貰うようにしている。</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR 注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。  <input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b>          これまでの学生のデータ（GPA、プレースメントテスト結果、模試成績、CBT試験結果、国試結果）を解析を薬学部内だけでなく IR においても解析し、科学的根拠にもとづいた改善をはかっている。</p>
--	---

2018 年度

学科・専攻の「アセスメント・ポリシー」自己点検・評価

看護学科	
3つのポリシーを前提とした「アセスメント・ポリシー」の達成状況を学科・専攻ごとに自己点検・評価する。	
責任者: 鎮西康雄 (教務・教育改革担当副学長) 分担者: 各学科長、各専攻長、 村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (教務課長) 事務局: 教務課	
2018 年度自己点検評価	
	活動計画内容
1. 学生単位の学修評価の方針	<p>① 学位授与方針や授業形態に最も適した評価方法を採用します。知識や思考力の評価方法としては、従来から行われている知識・思考を確認する試験やレポートなどがあります。技能や態度については、プレゼンテーション、実技、実習などを観察し、適切な評価尺度（ルーブリック 注1 など）を用いる評価方法を活用します。薬学部では、客観的臨床能力試験（OSCE 注2）で技能や態度の評価が行われます。</p> <p>また、個々の学生の学修への取り組み方を評価するために、学生自らが学修過程ならびに各種の学修成果を記入する学修ポートフォリオを活用します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>各看護学実習科目は知識・技術や態度を総合的に評価する評価表を作成しており、学生による自己評価も活用して教員との双方向で評価している。全看護学実習終了後に4年次必修科目「看護の統合Ⅰ」において、これまでの学びを統合した看護技術試験を行って最終評価をしている。また、今年度は「卒業課題」の評価表を検討し、ルーブリックを取り入れた評価内容を作成して2019年度から使用する予定である。</p> <p>②学修評価には、学生の学力向上の手段として活用する「形成的評価」と、合否（単位認定）を決定する「総括的評価」があり、両者を適切に組み合わせます。</p> <p>「形成的評価」には、各授業で行われる小テストや国家試験・資格試験のための模擬試験などがあります。「総括的評価」は学期（セメスター）修了時に行われる定期試験です。定期試験における最終的総括評価（合否の判定）に至るまでに、学生が期待される水準に到達するよう、形成的評価を必要に応じて繰り返します。</p> <p><input type="checkbox"/>達成(100%) <input checked="" type="checkbox"/>ほぼ達成(実行中・80%) <input type="checkbox"/>遅れ有(50%) <input type="checkbox"/>大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>形成的評価として、講義内に複数回の小テストを実施しながら学修を計画的に進めている。その後、総括的評価として定期試験を実施し、学生が段階的な学修成果を確認できるようにしている。</p> <p>③各段階において学生が「何ができるようになったか」（アウトカム）を確認し、最終的な目標達成のどの位置まで到達したか把握できる</p>

	<p>ようにします。</p> <p>全学生が「核となる知識について社会が求める水準」まで段階を踏んで着実に到達できるよう、授業、科目、学年終了時などの各段階において、学生が「何ができるようになったか」を適切な評価方法で確認し、最終的な目標達成に至る自分の立ち位置（マイルストーン）を把握できるようにします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学年終了時に、GPA2.0未満の学生を中心に学生担当教員が個別に面談して、学生自身の到達度を確認している。何ができて、何ができていないかを振り返り、今後に向けての具体的対策を確認している。</p> <p>4年間の看護学実習科目において、「看護技術の到達度」冊子を用いて、各科目での看護技術の経験の有無や卒業時の到達度を記載して確認している。</p> <p>全看護学科目終了後に4年次必修科目「看護の統合Ⅱ」において、これまでの学びを統合した専門基礎・専門科目に関する試験を行って最終評価をしている。</p> <p>④各科目の合否の判定（単位認定）に加えてGPA注3による評価を活用します。</p> <p>GPAは学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したものが、進級、卒業（学位授与）、国家試験・資格試験合格の目安になり、奨学金等の審査、あるいは進路変更などの修学指導に用いられる場合があります。3年前期学内実習において学内教員による確認試験を導入する。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>学生の科目の履修状況とともにGPAを確認し、学生との個人面談や保護者を加えた3者面談時の学修指導に活用している。前期・後期成績結果発表前後にGPA2.0未満学生は、学生担当教員・学年担当教員・教務委員長など複数で学生と面談を行って学修指導を実施している。</p> <p>⑤学生に主体的に学習に取り組む態度を育むために、学生が自らの学修行動を振り返り、自己の改善に結びつける活動（PDCA活動注4）を促します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>毎年度初めに学生が記載した今年度目標とカリキュラムマップを用いた成績結果をもとに、各学生担当教員が個人面談している。担任の交代があった場合は、その内容を申し送り、継続した指導に活用している。</p>
<p>2. 大学単位、専攻単位の学修評価の方針</p>	<p>①各専攻の教育課程が「核となる専門的知識について社会が求める水準」に学生が到達することに有効であったかどうかについて、単位認定者の割合やGPAの他に、国家試験・資格試験の成績を活用します。</p> <p>本学では、国家試験・資格試験の成績の指標として、各専攻における「入学者数（入学時資格取得希望者数）あたりの合格者数」を重視します。全国の同種・同レベルの大学と比較して上位となるように、各専攻および大学全体の教育課程編成や学修指導方法の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>2018年度はIR推進室に分析を依頼し、6月に1期生の学内国家試</p>

	<p>験模擬試験と4年間の成績および国家試験合格との関連に関する分析結果を踏まえて、3年生後期からの各看護学実習指導とGPAを基にした適時の学修指導の充実化をより進めていく。</p> <p>入学者数あたりの看護師国家試験合格者数は第1期生入学者99名、国家試験合格者83名であり、合格率83.8%であった。第2期生は入学者96名、国家試験合格者87名であり、合格率90.6%であった。今後も成績不振者・原級留置者への教育指導を体系的に行い、合格率の上昇をめざしていきたい。</p> <p>②技能や態度への教育効果については、各専攻・各科目の評価尺度（ルーブリックなど）を用いた評価結果の他に、全学的な学修行動調査や意識調査により評価します。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>看護学部は、実習・演習科目を中心に知識・技術・態度を総合的に評価する評価表を作成している。また、在学生の意識調査についてはIR推進室に分析を依頼して学部生の特徴を評価している。</p> <p>③各教育段階で、学生の授業評価や教員の自己評価の機会をもち、学生の立場に立った授業や教育課程の改善（FD注5活動）を不断に継続していきます。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記進捗状況の具体的内容</b></p> <p>学生による授業評価や授業内のリアクションペーパーの内容から学生の学修状況や理解度を把握し、次回講義にフィードバックしている。講義方法や内容の課題がある場合は、次年度の改善点を明らかにし、シラバスに反映させている。</p> <p>研究推進・FD委員会が中心となってFD活動計画を立て、年2回の研究・教育改善のための取り組みをしている。</p> <p>④卒業生や学生の就職先機関による本学の教育に対する評価を活用し、教育課程の改善に生かします。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>第1期生は2019年4月に入職1年を迎える。この機会に卒業生に対して看護学部教育に対する評価を実施するために質問紙を作成し、倫理審査の承認を得た。第1期生2019年度と第2期生2020年度に実施し、今後の教育の在り方に活用する予定である</p> <p>⑤以上の学修評価結果や教学についてのさまざまなデータを大学として集積して分析することにより（IR注6）、科学的根拠に基づいた教育課程の改善を図ります。</p> <p>□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)</p> <p><b>上記達成状況の具体的内容</b></p> <p>IR推進室に分析を依頼し、6月に第1期生の学内国家試験模擬試験結果と4年間の成績および国家試験合格との関連についての分析および在学生意識調査の分析結果に関する説明を受けた。この結果をもとに、3年生後期からの各看護学実習指導とGPAを基にした適時の学修指導の充実をより進めていく。</p>
--	--